

平成から令和へ。川尻の“いま”を伝えます

# 河陽新聞

Vol.27  
2019.8.23  
KAWASHIRI AREA  
NEWSPAPER  
KAYOU SHINBUN

## 精霊流し

記者  
金井 俊行 (7町内)

歴史ある川尻校区の夏の風物詩と言えば、「精霊流し」ではないでしょうか!?今回はそんな川尻精霊流しとお盆について取り上げてみたいと思います。



精霊流し(しょうろうながし)は、「長崎県の各地、熊本県の一部及び佐賀市でお盆に行われる、死者の魂を連れて送る行事のこと」と言われて

おり、川尻の精霊流しは細川藩の時代に始まり毎年8月15日とお盆の時期に行われ、山鹿灯籠祭・宇土地蔵祭と合わせ熊本県三大夏祭りと言われていました。ちなみにお盆は、盂蘭盆会といい、精霊会や魂祭(たままつり)とも呼ばれています。その起源はお釈迦さまが生きてらっしゃった時代まで遡ります。

昔むかしお釈迦さまの弟子に目連さんというとても超能力に優れたお坊さんがいました。ある日のこと、親子の愛を見かけた目連さんはふと母にあいたくなりました。けれどもお母さんはどうの昔に亡くなっていました。すると目連さんは超能力で母親を探しに行くことにしました。天上界、修羅界、畜生界の順番で探すと見つからず餓鬼界でようやく見つけ出すことが出来ましたが、さらに苦しめる結果となりました。失意の中でお釈迦さまに助けを求めました。お釈迦さまは「そう、お前の母親はお前を愛するあまり、周りを思いやる心を失ってしまった。我が子の幸せを思うあまり、大事なことを見落としてしまい、他人の子供の幸せが憎たしく思ったり、十分に幸せなのにもっともっとと貪ってしまったのだ。お前のためと言いつつ、自分さえ満足できればそれでよいという生き方をしてしまった。」と申されました。「餓鬼道に落ちたものを救うのは難しい。たとえ百戦錬磨の目連の超能力であっても。」

目連さんは大切なお母さんを救うために、自分が身代わりになっても助けたいとお釈迦さまにお願いされます。お釈迦さまは「超能力で母を助けることはできないが、施す功德があれば救い出すことが可能かもしれない。多くの修行僧に食事の施しをせよ。7月15日に3か月の修行が終わる修行僧にたくさんの食事を施して供養をするのだ。清らかな僧たちが心一つにして、その布施を受ける功德は大きな力となる。これによって自分の親ばかりではなく、多くの人々が苦しみから救われるであろう。貪りに罪で餓鬼道に落ちてしまった母だからこそ、見返りを求めない施し(布施行)で救いなさい」と目連さんにおっしゃいました。そこで目連さんは多くの食べ物をお盆に盛り、たくさんの修行僧に供養をしました。目連さんが大勢の修行僧たちに供養の食物をごちそうすると、修行僧たちは喜んで祈りました。目連さんの親ばかりではなく、周囲の人々すべてが苦しみから救われますようにと……。こうして目連さんの母は救われ天上界に行くことができました。それを知らぬ人々が喜んで踊ったといわれています。

これが盆踊りの始まりといわれています。川尻校区でも私が子供の時には精霊流しの時に盆踊りとして川尻音頭を踊っていて、懐かしいと思われる方もいらっしゃると思います。今日ではお盆は新暦の7月13日から16日の4日間(主に熊本は13日~15日の3日間)、あるいは月遅れと称して8月に行うのが一般的です。川尻校区は8月にお盆をするのが大半ではないかと思えます。私のお寺でも8月に盂蘭盆会を行います。江戸中期の俳人、去来(きょらい・慶安4年~宝永元年 江戸時代前期の俳諧師。蕉門十哲の一人。)はお盆の句を詠んでいます。

### 『玉棚の奥なつかしや 親の顔』



簡単に解説すると「玉棚」は魂を祀る棚で、精霊棚のこと。そこにはこの時ばかり戻ってきた両親や先祖の懐かしい顔が勢ぞろいしますよ。ということをお歌っています。この句にもあるように、お盆になるとこの世を去った大切な人が、家に帰ってきます。そこで精霊棚を準備し心を込めてお迎えします。そして丁寧におもてなしをし、心を込めて15日または16日に送ります。精霊棚とは宗派によって準備しないところもありますが、テーブル等に真菰も敷いて四隅に笹竹を立て縄を張り、そこにはおぼずきを飾ります。また水の子(水の実)という蓮の葉の上に洗った米とさいの目に切ったナスやきゅうりを盛りつけたものも準備します(地域により異なります)。あとはそうめんや団子や季節の供物を飾ります。なすの牛やキュウリの馬も。このような物を準備してご先祖様をお迎えします。そして最終日15日に先祖を見送る行事として精霊流しを行います。

私達はついつい自分一人で生きているような気持になってしまうことがあるかもしれませんが、実際は様々なご縁のなかで生かされています。生まれてくるということ一つとっても、自分一人の力でこの世に生を受けた人は一人もいません。お父さんお母さんとのご縁があってこそ、人間としての身を受かることが出来ます。そしてその両親にもそれぞれ父母がいます。自分から見たら祖父母の存在が無ければ、やはり自分は生まれてくる事が出来ません。その祖父母も両親がいます。数え上げれば切りがないほどの沢山のご先祖様がいらっしゃってこそ、今の自分があります。奇跡というべきでしょう。そんな奇跡に感謝し、8月15日に行われた川尻精霊流しを令和という新しい時代にも残し伝えて行くことが大切ではないでしょうか?

## まちづくり放浪記②

記者  
益本 武士 (7町内)

【まちづくり放浪記の第二弾は鹿児島中央駅にある「かごつまふるさと屋台村」編で、川尻校区の有志で視察を申し込んで屋台村の仕掛け方や運営方法と芋焼酎と学んできました】

みなさん、新幹線が開通してしばらく経ちますが、以前より身近な存在になったとともに、「熊本に負けるな!追い越せ」みたいな鹿児島県の意気込みがヒシヒシと伝わってくる気がしているのは私だけでしょうか。

またその象徴である鹿児島中央駅を出てほぼ目の前にある「かごつまふるさと屋台村」が異常に盛り上がっているのをご存知でしょうか。この異常ともいえる盛り上がりには何か秘密がありそうだと思います、今回川尻校区の有志で視察を申し込みました。



最後の謎はなぜ地元の人が多く集まるのかということでした。川尻校区といえば「瑞鷹」と言うように、鹿児島と言えば芋焼酎ですね。そして屋台村では「屋台村焼酎」が全店舗200円!さらにすべての料理がお手頃価格で地産地消というのが屋台村のルールになっています。なるほど、そうすれば地元の人としても250坪に25店舗もあり更にお手頃価格であれば行かない訳はないですね。他にも地元の人参加できる婚活イベントなど催しが多く企画されていることも、地域から愛されている理由だと思いました。

私たちは、「5軒ハシゴしたら薩摩キリコがプレゼントしますよ」と言う最後の仕掛けにより、その勢いのまま屋台村を5軒もハシゴしてしまった形で視察全行程完了し、そのまま鹿児島最大の歓楽街である「天文館」へと吸い込まれてしまいました。

このような屋台村が川尻校区に出来ればもっと観光客と共にこの記事を読んで下さったみなさんと瑞鷹を飲みながら楽しみたいと思った私でした。

2012年に「かごつまふるさと屋台村」は誕生しました。伝統的な郷土料理の屋台から、新たな鹿児島の味を伝える個性豊かな屋台まで、訪れる人を鹿児島の旬の食材・郷土料理、さらには「かごつま弁」で“おもてなし”してくれます。250坪の敷地にコの字型のカウンターで8名掛けのこじんまりした屋台が25店舗ひしめいています。ここで大事なのが8名で、カウンター越しにお客さんをもてなすためには8人が限度だということを知ったことでした。なるほど店主のもてなしが届く範囲だからこそ、隣の知らない人同士が楽しく話せるという仕組みがそこにありました。

また店舗の運営期間は3年間で、新たに募集する形で店舗の場所も入れ替わり、その際は25店舗のまとめ役である村長も入れ替わるそうです。入れ替わる理由の一つには店舗の人気や立地また店舗の形態などのバラツキを防ぐ目的もあるそうです。そうすることでマンネリ化を防ぎ再度訪問しても楽しめる仕掛けがありました。



## 川尻うまかもん

vol.2

### ちーちゃんのぎょうざ

記者  
水野 大 (9町内)

みなさん暑い夏がやってきましたね!熱中症や夏バテなど、体調管理には十分に気を付けて下さい。

今回の川尻うまかもんは、そんな暑い夏にピッタリな餃子専門店をご紹介します!

お店を運営するのは、ちーちゃんこと熊川千鶴(くまがわ ちづる)さん。座右の銘は「ケセラセラ」という、屈託のない笑顔が素敵な奥様です。

お店をオープンして3年。ちーちゃんの餃子を買って求める常連さんも多く、子供からお年寄りまでたくさんの方々に愛されています。

定番メニューは肉・しそ・にんにくの3種類。なんとと言っても、ちーちゃんのぎょうざは大きいんです!このボリューム感がいい!皮はパリパリ、野菜もたっぷりヘルシー!キャベツは食感を楽しんでもらいたいと大きめに手切りしているそうで、食べ応えも十分にあります。特にしそ餃子がイチオシ!しそのサッパリ感と甘酸っぱい自家製タレの愛称がバッチリで、やみつきになります!

店内で熱々をいただくことも、お持ち帰りもOKです。お持ち帰りの場合、焼きたて・冷凍を選ぶこともできます。



自信と愛情を持って包んでおります。近くに来られた際は、是非お立ち寄り下さい!

「ちーちゃんから一言」

※期間限定ですが11月~3月まで水餃子・キムチ餃子も追加予定とのことです。発送・配達も随時行っていますので、詳しくはお店までご連絡ください。

店内食事・焼き持ちかえり	
肉餃子	¥400
しそ餃子	¥450
にんにく餃子	¥450
それぞれ5個入り	



冷凍持ちかえり	
肉餃子	¥450
しそ餃子	¥550
にんにく餃子	¥550
それぞれ8個入り	

住所: 熊本市南区川尻6-9-112  
TEL: 070-5419-4487  
営業時間: 12:00-19:00 (夜の宴会、要予約)  
休休日: 毎週月曜日、毎月第1日曜日



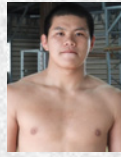
# がんばれ熊農生



記者 宮田 あき (2町内)

2019夏。今年の全国高等学校総合体育大会(インターハイ)が、主に南部九州4県で開催されるのをぞんじですか?川尻校区にある県立熊本農業高等学校には見事、出場権を獲得された生徒さんがいらっしゃるの情報を得てお話をうかがってきました!ご案内してくださったのは、園芸・果樹科の堤先生。優しい雰囲気ながらもさわやかな先生にお出迎えいただき、心ときめきつつ、先ずは相撲部へ。広々とした立派な土俵!!その奥にずらりと並べられたトロフィーや賞状の数々。

今夏、熊本県代表として全国大会へ出場するのは、笑顔が爽やかな3年生の北野泰聖さん。鍛え上げられたムキムキの筋肉を前に、触りたい衝動を必死で抑えながらお話をきくことに。173cm86kg、相撲部では小柄だという彼は、今年熊本県大会の総合開成式で、選手宣誓をされたとのことでした。もしかしたら、ニュースで見た!という方もいるかも。しかも北野さん、大阪で開催される世界大会にも出場が決定しているんですって。すごすぎる!「得意技は?」う〜ん、と悩みつつも「出し投げ」、「インターハイでの目標は?」との質問に、「1度でも勝てれば…」という控えめな北野さん。でも、「実は優勝してます」と言いたげな表情の北野さんでした。相撲競技は、無差別で行われます。



続きまして馬術部へ。敷地の南側に位置する馬場で、愉しそうに馬の手入れをなさっていた門田翔健(しょうけん)キャプテンにお話を聞くことに。ステキなお名前前のキャプテン、「僕が知っている限り、毎年名前に【翔】の字がつく部員がいます」との事。ちなみに、一緒にお話してくれたのは有田風斗(かざと)さん。お名前から風を切って馬に乗る光景が浮かんできそう!馬術競技は、6名1チームの団体戦で、3名の騎乗による合計タイム&ポイントで競います。初対面の馬に騎乗、しかも騎乗馬は直前まで不明という難条件で行われるので、選手の技術はもちろん、馬との相性を短時間で見定める監督(先生)の采配も、勝敗をわける重要なポイントだそう。監督、責任重大ですね、、、熊農チームは、九州予選を勝ち抜き、静岡県で7月23日から開催される全国大会に臨みます。優勝を獲りにいきます!と力強くガッツポーズを決めてくれました。

高校生たちのあふれる生命感と純粋さを直接肌で感じてしまい、鼻血を吹きそうになりながら、最後はボクシング部へ。練習場に近づくにつれて大音量の音楽が!またまた立派なリーニング!広々としたスペースで、部員のみなさんがスパーリング中。やはり、リズムが大事なボクシング、POPな音楽に合わせ軽快な動きで殴り合い!女子部員もいらっやあって活気があふれています。まず、お話をしてくださったのは、新キャプテンの川瀬勝弥さん。ボクシングといえば過酷な減量、のイメージを勝手に持っているのですが、減量について聞いてみると、試合に向けて2~3kg徐々に減らしていきますという答えが。えっ?そんな簡単に減らします、とな!?夏は暑いからすぐ減りますよ(笑)って。…ほんと、若いってスゴイ!そして、全国大会へ出場されるのは、3年生の江崎 由(ゆう)さん。バンタム級の熊本県チャンピオンです。ボクシングの階級は、体重で17階級に分けられていて、バンタム級は52.163~53.524kg(115-118ポンド)と5番目に軽い階級なのだそう。ちなみに、新キャプテンの川瀬さんも同じ階級で、今年決勝戦を戦ったとのこと。勝ったときの達成感と爽快感がボクシングの魅力です!という江崎さん。インターハイの目標は「もちろん優勝!!」と目をキラキラさせて教えてくださいました。やっぱり何かに一生懸命打ち込んでいる姿は、輝いていますね。まぶしいです。ボクシング競技は、7/27-7/31に宮崎県で開催され、トーナメント方式で試合が行われます。



僭越ながら、川尻校区住民を代表して「全力で応援します」とエールを送って県立熊本農業高等学校を後にしました。お忙しい中ご案内くださった堤先生をはじめ生徒の皆様。どうもありがとうございました。最後に、今夏の南九州高校総体、熊本県では水泳、バドミントン他、全7競技が開催されます。高校生たちの熱い闘いをぜひ応援してくださいね。「がんばれ!熊農生!!」

僭越ながら、川尻校区住民を代表して「全力で応援します」とエールを送って県立熊本農業高等学校を後にしました。お忙しい中ご案内くださった堤先生をはじめ生徒の皆様。どうもありがとうございました。最後に、今夏の南九州高校総体、熊本県では水泳、バドミントン他、全7競技が開催されます。高校生たちの熱い闘いをぜひ応援してくださいね。「がんばれ!熊農生!!」



# ~自治協紹介~川尻小学校からラックルくんのご紹介



記者 古川 亮 (10町内)

川尻小にお子さんやお孫さんがいらっしゃる方はご存知の方も多いと思いますが、川尻小にはマスコットキャラクターがいます。鮮やかな緑色の体にアサギマダラの蝶ネクタイ、葉っぱの耳をした、ラックルくんです。このキャラクターは、川尻小学校の子供たちの発案で作られたもので、実はあのくまモンよりも早くに作られています。今回はその由来や活動などについてご紹介します。

まず、キャラクターそのものについてですが、元来川尻小には樹木や花などが多いこともあり、「緑を大切に」という考え方を創造のコンセプトとして作られました。「ラックル」という名前は、川尻小の中にあるヒノキ科の針葉樹、落羽松(らくりょうそう)という木の呼称由来しています。そして誕生以来、川尻小の「木の妖精」として川尻小や川尻地域をPRする活動を続け今に至っています。当初はイラストで描かれたキャラクターを使用することで活動していましたが、数年前からはついに実物が登場し、学校行事や川尻地域のお祭り、時には地域外のイベントなどにも出演して子供たちと触れ合い、その場を盛り上げています。ちなみに現在の出勤、活動

は月に1回くらいの割合で行われ、全国ゆるキャラグランプリにも毎年エントリーしています。

また昨年にはテーマソングも作られ、小学校の運動会では、先生がメロディーに合わせて振付をし、それに合わせて子供たちがダンスをするプログラムも組まれました。

ラックルくんの普段のお世話は川尻小愛育会(PTA)が行っており、保護者の方々の協力で活動ができています。こうしたキャラクターは今でこそ全国いたるところで作られていますが、一度作ったものの活動を継続していくことは容易ではありません。ラックルくんの活動を続けていくためには、今後川尻小に入学してくる児童の保護者の方々や地域の皆さんにその活動が認知され、その存在の意義が認められなければなりません。そうして初めて、次代に引き継いでいくことが可能となります。今後は、ラックルくんが川尻小のマスコットキャラクターとしてだけでなく、「地域の子供たちの安心と安全の象徴」としても認めていただけるような活動に取り組んでいければと考えています。そしてその活動の一つは、すでに始まっています。

# 川尻校区自治協議会とは

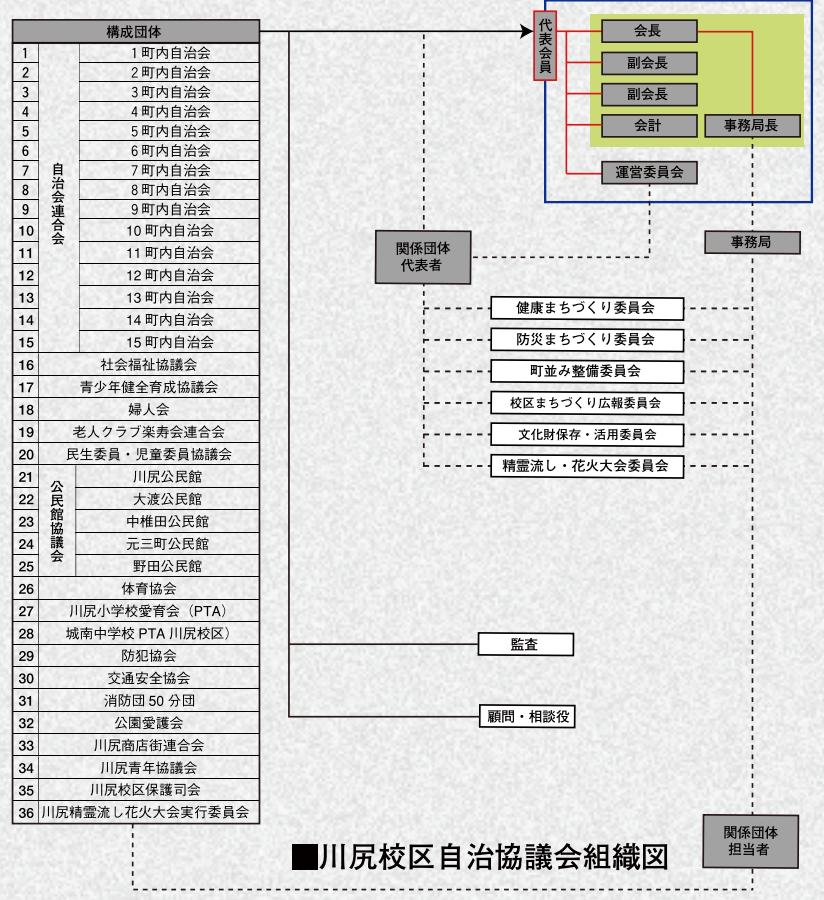


記者 古川 亮 (10町内)

川尻校区自治協議会は地域活動の推進や地域課題への対応をすることで、円滑な校区運営を図り、豊かで住みよい地域社会の形成に資することを目的に、下記の表に掲げる川尻校区の地域団体が構成されています。自治協議会は地域活動の推進や地域課題への対応をするため、6つの委員会を設け地域の課題等を行政と話し合いながら活動しています。近々みなさんが感じられることは、川尻公会堂の改修工事や町並み協定の締結、避難所運営委員会の設置、ハザードマップの作成などがあります。また、川尻の伝統行事の一つである精霊流し・花火大会は毎年規制等が厳しくなり、全国的にも花火大会はなくなっている中、どうにか続けて

いこうと、色々な世帯を巻き込み、知恵を出し合いながら、今後も続けていける体制作りを図っているところです。今後は米蔵の改修工事が終わった後の活用法などが、検討事項としてあがっています。

最後にこの河陽新聞も前号より自治協議会で作成しています。新聞製作メンバーは若返り、内容も今までと違った感じになっていますが、色々な世代や目線で自分たちの住んでいる川尻をもっと知ってもらおうと企画制作しています。まだ試行錯誤しながら作っている部分もありますので、色々な意見や要望等がありましたら是非河陽新聞専用メールアドレス(kayou.shinbun@gmail.com)に送っていただき、みなさんで作っていただければと考えています。



# 自治協紹介 川尻青年協議会 「川尻わっしょい」



記者 古賀 喬 (1町内)

こんにちは、今年の「第12回 夏だ!夜市だ!! 川尻わっしょい」実行委員長で青年協議会の古賀喬(コガ タカシ)と申します。令和元年度の記念すべき年に、このような大役を任せられ、緊張で気持ちが非常に高揚しており、その勢いでテーマを『和』(令和の和、仲間の和、平和の和...)と銘打ちました。

「時代」というのは今まで何度も変わってありますが、川尻という街は昔ながらの「いい」部分は残しつつ時代の変化に対応してきました。私達の世代もこの昔ながらの「いい」部分をといて見習い、また、学びながら、実践していかなければいけませんし、後世に残していかなければなりません。この、時代の節目に、私達ももう一度、川尻が一つの「和」になる必要があります。

さて、今年のわっしょいは8月24日(土)17:00より加勢川河川敷右岸グラウンドで例年どおり行予定ですが、最終土曜の8月31日ではありませんのでご注意ください(夏休み最後の土曜日が24日のため)。

ステージイベントにつきましては例年とは違った趣のイベントとして「川尻音頭&浴衣コンテスト」を

企画していますので是非会場に足を運んで下さい。

また、わっしょいの1番のメインイベントである、「わっしょい引き」も今年も行います。景品は毎年ニーズに合わせて変更しており、今年も皆さまに喜ばれる賞品(下関ふぐ三昧旅行や川尻刃物、任天堂スイッチ、コードレス掃除機など)を準備しております。わっしょい引きのタオルは、例年同様、川尻内の数ヶ所の店舗(林酒店等)や、青年協議会員より購入できます。たくさんのタオル購入をよろしくお願いたします!!川尻へ、ワッショイ!!

夏休み最後の土曜日は川尻校区のみんなで、「令和」となったこの節目に手を取り合い、新しい時代を築き上げるためにも川尻わっしょいを盛り上げていきたいと思います。



# 編集後記



令和元年の第二弾の河陽新聞いかがでしたでしょうか。この新聞が届いたころには熊本県三大夏祭りと言われた精霊流しや12回目を迎えた川尻わっしょいも終わっているかもしれません。また青少年健全育成協議会、川尻小愛育会、社会福祉協議会が中心となって川尻小学校の4年生をキャンプも地域のチカラで実施されました。夏は川尻校区自治協議会を中心として川尻校区が1年の中で最も賑わう時期だと思えます。今後は川尻校区をもっとよくするために自治協議会内で活躍している団体にもフォーカスを当ててその活動内容を地域のみなさんに知ってもらおうと思えます。

またこの川尻校区に住んでいる皆さんとして、こうしてほしいとかここを教してほしい、変えてほしいなどありましたら、ぜひご意見を河陽新聞専用のメールアドレス(kayou.shinbun@gmail.com)にご意見をいただきたいと思います。そしてプレゼントキャンペーンもひっそりと実施しておりますので、ぜひご応募ください(笑) 最後と一緒に川尻校区をもっと良くしたい、好きになりたいという人で記事を書くことに協力してほしいという方もご連絡いただけると幸いです。 ※もちろん年齢などは問うつもりはありません(m(\_ \_)m)

# 読者プレゼント

大人気のプレミアムポップコーンを30名様にプレゼント!

「河陽新聞」をお読み頂きありがとうございます。前号に続き、『サブリーポップコーン』(代表は8町内 佐分利太介さん)のからし連根風味ポップコーンを抽選で30名にプレゼントいたします!

ご応募は [kayou.shinbun@gmail.com](mailto:kayou.shinbun@gmail.com)

に氏名・住所・連絡先・今号の感想を記入してメールしてください。

当選者の方にはご案内を返信いたします。(商品は手渡しになります。詳細はご当選者様にお送りします)

